

第7回「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会議事録

1 日 時 令和2年11月16日（月）13：00～14：35

2 場 所 アクロス福岡 606 会議室
(福岡市中央区天神1丁目1番1号)

3 出席者（敬称略）

・作業部会委員

	氏 名	役 職 等
部会長	小 出 秀 雄	西南学院大学 経済学部 教授
	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	田 中 綾 子	福岡大学 工学部 教授
	久 留 百合子	(株) ビスネット代表取締役／消費生活アドバイザー
	松 藤 康 司	福岡大学 名誉教授

4 会議次第

1 開 会

2 議 事

- (1) 第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の名称等について
- (2) 今後のスケジュールについて
- (3) 第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の取組指標について
- (4) ごみ処理量の将来推計について

3 閉 会

5 議事録

議事（1）第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の名称等について

【事務局】

(資料1について説明)

【部会長】

ありがとうございます。名称とキャッチコピーに関してご説明いただきました。

【委員】

これは前からよく言っているんですけど、前は「スリム」と「シンプル」と「スマイル」というのがよく書いてあった。3つの「S」が。それにコロナとかいろいろあるので安全安心で「セーフ」、それから「コストセーブ」、お金を無駄にしないということと、共同共有ということで「シェア」、そういう言葉で6つの「S」で言ったんですけども、事務局のほうからはそれに「サステナブル」を入れたらどうかということで7個。

【部会長】

長いですよ、これだけ。

【委員】

7つは多すぎる。こういうものは3つとかです。分からなくなる、7つもあつたら。大事なもののだけ3つぐらい残せばいいんじゃないかな。

【委員】

サステナブルって結果の話なんで、上のタイトルのほうに入れてもいいんじゃないんですか。

【部会長】

「スマイル」は最初から入っていたわけですね。

【委員】

福岡は3つ、「シンプルライフ」とそれから「スリム」は減量というので、「スリム」と「シンプル」と「スマイル」というのは前からよく使っている。もう20年以上になると思います。

【部会長】

「シェア」っていうのが、新しい「S」として入れたほうがいいかなと思います。5つぐらい入れたらいいんじゃないですか。

【委員】

私もだいぶ迷ったんです。これを最初送ってこられて見た時に、多いなと思って。5つぐらいに絞るかなと思ってんですけど。

【部会長】

大体同じことを考えています。

【委員】

あまりにちょっと多いなと思いながら、やっぱり3つかなとか思いながら。でも、「スリム」「シンプル」「シェア」のほうがいいかな。

【部会長】

「シェア」のほうがいいですか。

【委員】

確かに「S」で全部そろっているんですけど、福岡で何で「S」かなと。

【部会長】

何でFじゃないんだろうと。

【委員】

「S」の意味が、福岡らしさがある何かがいいのかなと思ったりしたんです。日本語でもいいかなと思ったりしたんですけど、お年寄りもいるので、なかなか外来語が苦手で「何だろう？」という人もいるかもしれないので。

【部会長】

「ふ」から始まるのを9つ並べるとか。

【委員】

そういうのもちょっと思ったんです。

【委員】

「セーフ」とか「スマイル」とかもいい言葉なんだけど、環境に直接には。やっぱり絞ったほうがいいと思うんです。環境のキャッチフレーズ、キャッチコピーということで。

【部会長】

そしたら「スリム」「シンプル」「シェア」みたいな感じで、3つだったら。

【委員】

直接的ではありませんね。違うのを考えてもいい。福岡の「ふ」を頭文字にして何かするか。

【部会長】

「F」から始まるのを9個、難しいですね。「F」から始まるって言ったら、「ふ」しかないですもんね。だから、多くても5つぐらいでいいと思うんです。

【委員】

福岡らしさがあるものが何となく良さそうな気がしますけど。

あと、新計画の名称案のところですけど、確かに行動を促したいというのはあるんですけど、中身の施策が推進とかばかりなので、中身と掛け声の言葉がちょっと違うかなと思ったんです。

【委員】

僕も推進というのは国の法律みたいで、循環推進法とか。格好はいいんだけど、ちょっと使い古された言葉かなと思います。

【事務局】

もし行動プラン、行動計画とかになると、原案を作る中で、こういった行動に取り組んでくださいと言ったところを施策と合わせてコラムで書くとか表現するとかいう流れになるのかなと思っています。

【委員】

結構行動って付けるときついなって感じがするんです。

【事務局】

行動はなかなか、こうしてほしいという強くメッセージを出す必要があるかなとは思いますが。

【委員】

単に行動を付けるということは、それに連動したものが中身でないと。だから無難なのは基本計画が一番無難ではあるんですけど、でも伝わらないですね、基本計画では。

【部会長】

サブタイトルも基本計画って入っているから、かぶっちゃうんですね。

【委員】

かぶりますね。計画がなくてもいいのかもしれないと思うんです。後ろに計画が付いているというので。

【委員】

タイトルはやっぱり継続したほうがいいかなという気はするんです。なので、循環のまち・ふくおかは入れたほうがいいと思います。

サブタイトルを付けるということは、基本的には上は動かさないからサブを付けるという考え方ですね。なので、循環のまち・ふくおか計画でいって。

【委員】

だから、これ今のタイトルに第5次を付けたほうがいい。「第5次循環のまち・ふくおか基本計画」にすればいい。

【委員】

サブタイトルでキャッチフレーズみたいなのを入れたほうがいいのかなと思います。「横浜 3R 夢プラン」みたいな感じで。

【部会長】

第5次がメインタイトルで、サブタイトルとして「循環のまち・ふくおか」。

【委員】

いえ、「第5次循環のまち・ふくおか計画」にしてもらって、サブタイトルはさっき言った「目指そう7つ星」とか、そんな感じでキャッチフレーズが。

【委員】

廃掃法よりも上位計画なんです、推進基本法は。それを循環のまち基本計画として読み替えている。だから「第5次循環のまち・ふくおか基本計画」ということにしてみても。サブタイトルはキャッチコピーでも。

【委員】

だからここも「循環のまち・ふくおか行動計画」とか「活動計画」とかそんなのもいいかなと思って、そこは基本的に同じで。やっぱりこのキャッチフレーズ、これは「S」とかにこだわらないで、標語みたいな、みんなが分かるようなのを一文付けたらどうですか。川柳じゃないけど、短い何か。

【委員】

だから基本としては、目指そうとかやるぞという感じなんです、決意表明なんです。

【委員】

福岡市はコンパクトシティだから何かいい言葉が出てきそうですね。

【部会長】

何か、サブタイトルのほうですね。そういうのを決めないといけないわけですね、この場で。

【事務局】

次回でも構いません。最終的に原案ができるときに決まっていればいい話ですので。

【部会長】

そしたら今の段階だと「第5次循環のまち・ふくおか基本計画」で、サブタイトルはこれから考えるということですか。

それでは「今後のスケジュールについて」をご説明お願いいたします。

議事（2）今後のスケジュールについて

【事務局】

（資料2について説明）

【部会長】

ありがとうございます。資料2に基づいてご説明いただきました。何かご意見等々、ご質問ございましたらよろしく願いいたします。9回目がこのポジションだと2月初めぐらいですか。

【事務局】

はい。その予定にしております。

【委員】

この前審議会の時に結構いろんな意見がありましたが、今度の12月議会でその辺がまた聞かれるんでしょうね。

だから、もちろん今日そこを審議するところはあると思いますけど、やっぱりある程度私たちのしっかりとした総意というか、ちゃんとこの部会で検討しているんですよというところを議会でも伝えていただくほうがいい。12月ですから、やっぱりそういう流れにもなるんですよ。まだ決定ではないわけですよ、12月の段階では。

それをまた審議して、議会でも議論があつて、それから次の最終的にまとめあげていくみたいな流れになるんですか。

【事務局】

そうです。

【委員】

結構微妙なところですね。今日はその辺も議論になると思います。

【委員】

今委員が言われたように、いろいろ議論しておりますよというトーンで説明していただいたほうが。

【事務局】

この間の審議会の中でも、作業部会で検討した中身の中間報告という立ち位置で報告をしておりますので、今後ご意見を頂ければというところで話をしておりますし、作業部会の中でしっかり検討していただいたものを報告しているというところは説明しておりますけれども、そこはしっかり対応していきたいと考えています。

【部会長】

では3つ目の「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の取組指標」について、ご説明をお願いいたします。

議事（3）第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の取組指標について

【事務局】

（資料3について説明）

【部会長】

ありがとうございます。取組指標ということで、特に右ページのところです。いろいろご指摘があると思いますが、どこからでもどうぞ。

【委員】

1ページとか2ページにも絡むかと思うんですけど、「環境配慮型商品の普及」というところで、消費者からすると、なるべくパッケージとかプラスチックが入っていないものを買いたい

たいとか、プラスチックとかも家に持ち込みたくないんだけど、売っている状態がプラスチックだらけですよ。だからそういうところをどうするかと。

プラスチックを全く否定するわけじゃないんで、2 ページのところから言うと、「設計段階からの環境配慮型の商品の開発支援」とかその辺にもつながってくると思うんですけど、指標を取るときにこれではちょっと指標にならないかなという気がするんです。1 ページの「環境配慮型の商品を購入する市民の割合」のところ。これはグリーン購入ということにはなるかもしれませんが、代替素材というところは、どうも指標には現れにくいというか。

これはどんなふうを考えていったら、実際問題として提供する側も小売りのほうもプラスチックをなるべく使わないで提供するの、消費者もやっぱりそういうものを選ばないようにするのかというところが、どうも1 ページと2 ページを見てても、ちょっとつかみにくいなという感じです。その辺はどんなふうにお考えですか。

【事務局】

福岡市の特性が消費都市であるということからも、生産側に訴えるのはなかなか難しいところが1つあります。レジ袋の関係もそうですけれども、少し何か起爆剤があって、市民の行動の機運みたいなものを起こした上で、その状況を把握するみたいなところが必要なんだろうとは思っているんですけども、現状、例えばレジ袋の有料化みたいな大きな枠組みの中で、市がやる施策に関しては少し限られてるのかなというのも実感としては思っています。

現状として把握しているのは、市民がこういう行動を行っている、そういった状況の中で市民に対してこういった行動をなるべくしていただきたいという広報・啓発を今も推進していますので、そういった中でこういった数字の動向を調べていくという形になるのかなと思っています。

それと同時に、環境配慮型商品の設計段階からの開発みたいなものというのは、福岡市の特性から言うと、多分「産」よりも「学」との連携によって、少しモデル的なものを進めていきたいというのがありますし、「産」であればスタートアップ企業みたいなところが福岡市の特性になりますので、そういったところとの連携を深めていく形を本当は指標に定めて取り組みを進めていきたいというのはあるけれども、なかなか指標というのも難しいところがあったので、今回はそこまで挙げてないということが今の現状と考えております。

【委員】

ちょっと前だったらそれくらいでもいいのかなという気がするんですけど、この前から小売事業者の方のヒアリングもしましたし、そうするとやっぱり売る側の責任みたいなところとか、そういうところにも何かもうちょっと踏み込めないかなと。

それと今度は、消費者のほうもそういうものは選ばないようにする。なるべくばら売りとかプラスチックに入ってるものは選ばないようにするとか、その辺が教育と言え教育、啓

発もあるんだけど、何かで指標としてそういうものを例えば選ばないように、去年と比べて選ばないようにしたとか、半分くらいにしたとか、そんな調査とか何かができれば。私も難しいというのは分かるんですけど、もうちょっと踏み込んでもらいたいなという感じがします。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

20年ぐらい前、プラスチックがまだ問題になる前に、環境にやさしい商品を置いているか、スーパーマーケットを見て、学生さんがやっていたんですけど、要するにスタンプを貼って行って、いかにばら売ってるかとか、あるいは詰め替え用品を売っているかということで、ビジュアルにして店の評価をしたんです。そういうデータがあると、どうしても売るほうも評価されてるから環境配慮型になるというんだけど、最近はあまりそれをやっているグループがいなくなったんだよね。

【委員】

昔は消費者団体があったから。

【委員】

トレイをリサイクルしている店としてない店というのが分かるように評価して、店は非常に嫌がったんですよ。

【委員】

ものすごく嫌がってました。

【委員】

そういうのは地味だけれども、しないとなかなか福岡の場合は厳しいかなと。

それともう1点は、われわれの学会で、洗剤メーカーなんかを何社か呼んでみたら、結構それなりに努力してるわけです。メーカーによってはそのデザインをものすごく工夫して、原料を減らすような取り組みだとか、びっくりするぐらい研究されているんです。ただ、その情報が必ずしも、全部が共有されてないというのもあるんです。それを集中的に売っているスーパーとかもあるんです。

ただ、メーカーとしたら、昨今、プラスチックが問題になっているから、必死になって改良してるのは知っていると思います。ただ、それが福岡市で情報がどれぐらい入手できるかですね。

そういうふうなものをもう少し、前言ったような啓発普及のところで年に1回か2回、発信していかないと、消費者は分からないですよ。

【委員】

多分、これはエシカル商品のところに紐付いていると思うんですけど、もう既にそういうスーパー同士も考えていると思うし、福岡の企業として、企業同士でこれに関してアイデアを作って行動するようなミーティングとかをしていったほうが、私は市民団体の力もと思いますけど、やっぱり排出に携わっているスーパー同士でのミーティングを是非してほしいと思うんです。

私のところにも、最近企業から生ごみを減らしたいという話がたくさん来るんですけど、やっぱりどうにかしたいということ、そして市も絡んでほしいという話もあるので、成果がないかも知れないんですけど、やっぱりミーティングをしたほうが私は有効だと思うんです。

【委員】

それは前から言っているんですけども、福岡の場合は事業系ごみ資源化推進ファンドと環境市民ファンドの2つファンドがありますよね。そういうのをを使って、もう少し特化してテーマごとに、今委員が言っているような内容で、少し関心のあるところに出してみてもいいと思いますけどね。

以前、明太子屋さんが、明太子の容器は汚れてなかなかリサイクルしにくいから、部分的に集めていすを作ったり、花壇を作ったりしてましたけど。

そういう企業が出てくると、明太子だけでもだいぶ違うと思うんです、福岡は多いから。何かそういうモデル事業的なものに、事業系のファンドで支援するようなことを明記してもいいかもしれないですね。5年、3年という事業でもいいんですけど。そうしないと、プラスチックをしますと書いてあるけど、プラスチックをしないといけないという声だけで、具体的な提案はほとんど書かれてないですよ。

【委員】

そういう意味では事業者の集まりというのは、地球温暖化対策だったら市民協議会だったりああいうのがあったりしますけど、こういう廃棄物に対して循環型というものに対する機能のものってないんですかね。

【事務局】

先日、飲料メーカーとかスーパーのヒアリングをさせていただいたと思うんですけども、そういった小売りのメンバーでの勉強会というのは今始めています。じゃあどういう組織体にすればいいのか、それも含めて検討しています。会議を増やすことが目的ではなくて、

同業他社さんとどうやって共有して事業ができるかという視点でやりたいなと思っていますので、今それはヒアリングも含めてやっているというところです。

【委員】

それをぜひ進めてもらったらいいですね。

【委員】

勉強会の進め方とか内容はどんな感じになっているんですか。

【事務局】

今、実施しているのは、レジ袋の話に特化してまずやっています。具体的な取り組みとか、実際に話を聞くと会社ごとに全然違う。そして本社からのお達しがあつてとか、行政からこう言われてというところでの立場、そしてモデル事業の案も今少しずつ出てはいるんですけども、それを許可していただくにはやはり本社、東京に言わないとできないとか。いろんな課題を今出していただいて、じゃあ福岡型モデルは何がいいかという話を個別にはしています。

本当に勉強会の形をどうしたらいいかというところで、今進めているところです。いったんお声掛けをして、ご意見を聞いて、私たちのほうから「こんな形でいかがですか」という投げかけを今しているというような段階です。

【委員】

全体的なところに共通すると思うんですけど、取組指標の全ては福岡市のデータで取れる、例えば焼却量とかそういったものしかないの、事業者がどういう行動を取っているかというのが全体的にないんですね。

例えば古紙だと、リサイクルベースがありますよね。そうすると、リサイクルベースのほうに持ち込んでいる事業者が何件増えたとか、そういう形でも私はいいと思うんです。ですから事業者が行動を取っている指標というのを、どこかに入れるべきかなというのが共通して言えるんですね。

それともう1つは、施策の案のところなんですけど、要はグリーンで目標とするものが書いてあつて、そこに施策が白抜きで書いてあるんですけど、結局同じ文言が出ている、普及とか。

例えば高齢者のところなんかは「高齢者向けの資源循環の推進」と書いて、上も「資源循環の推進」なんです。ここで再掲することが何か分かりにくくなって、じゃあ高齢者向けに何をするのかという、出しやすいシステムを作るとか、そんな感じのもうちょっと具体的な言葉を入れていかないと、指標自体もちょっとぼやけてくるんじゃないかなと思うんです。なので、そこをもう少し整理したほうがいいかなというのが私の意見です。

【部会長】

ありがとうございます。

【事務局】

今回、左側の施策体系というのは、素案で示した施策の体系ということで、確かに言葉がちょっと重複しているところがあるんですけど、この下に具体的施策ということで、今度原案の中で少しお示ししていきたいというところもありますので、そこまで踏まえた形でちょっとご意見を頂ければというふうに考えております。

確かに、言われるとおり、今、大枠を示しているところはなかなか言葉を少し細かいところまで入れて表現できてないところがあるというのは認識しておりますので、ここは提案の中でご審議いただければと思います。

【委員】

先ほどの代替素材の普及とかいうのも、事業者向けのアンケートでもいいと思うんですね。どれぐらい使っているのか、あるいはチェーン店だったら、コーヒー屋さんだったらこういうことをやっているから、その店舗がどれぐらい増えているのかとか、そんな形でもいいのかなと思ったりするんです、数で。こちらで制御はできないんだけど、そういう業社が積極的に入ってきているとか、そんなのでもいいような気がするんですけど。

【事務局】

先ほど委員のほうから、事業系ごみ資源化推進ファンドを活用してプラスチックとかさまざまな施策にということを言われてたんですけど、今年3月に開催しました事業系ごみ資源化推進ファンド運営委員会の中でも、今までは事業系一般廃棄物だけに視点を当てて施策を推進させていただいたところなんですけど、やはりプラスチックというところは産業廃棄物ということではあれ、2割近く事業系ごみに含まれておりますので、何らかの施策なり支援ということを考えるべきというご意見も伺っております。

それについては、今後、事業系ごみ資源化推進ファンド運営委員会の中で、委員のご意見をいただきながら残された期間の中でどのような施策が効果的なのかということは、議論させていただきたいと考えております。

それと委員から言われました事業者側のデータというところで言わせていただきますと、先月10月から事業系古紙の分別義務化が始まりました。平成30年にスタートいたしましたリサイクルベースにつきましても、受入量が増えてきておりますので、今年、製品保管庫の増設という形で、補助金の交付ということをさせていただいております。

実際に10月に分別義務化が始まって、もともと4月～9月の間、基本的にコロナ禍の中で許可業者の収集量が約8割に減ってきている状況の中で、古紙の回収量が、前年度より若干ではありますが上回った状況で推移しておりました。10月からは、日量で10トンほど

増えておりまして、先月は960トンの回収をしております。9月で比較すると300トン、古紙の回収量が増えているような状況でございます。

そのようなデータも、取れるデータは活用させていただきたいというふうに考えております。以上でございます。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

今、事務局から「支店経営だからなかなか本社に言わないとできません」というところがほとんどなんですかね、福岡では。しかし、さっき言った明太子屋さんというのはほとんど本店が福岡なんで、本店が福岡で規模は全国的に比べると小さいんだけど、割とオーナーが言えばやりやすいところをモデルにしてやるというのも1つの手かなと。

そうしないと、ほとんど「分かりました」と、「それは本社に伝えて、本社のお伺いを立てて」ということで、そこが福岡は難しいんです。決定権がない支店が多いから、そういうところではできたら地場産業の育成も含めて、こういうのをやっていますよと。

逆にそういうのをお土産店とかに売ってあげれば、優良リサイクルとかごみ削減の店舗だという感じにすれば、これからお客さんも買うものを選ぶ1つの角度になるかなという感じするんです。そういうのもモデル事業としてやらないと、なかなか難しいかなと。

【委員】

中小企業経営者協会さんと組んでされたらいいんじゃないかと思う。

【委員】

それとかお菓子業界とか、地場の。福岡市内だけではなく福岡県で考えると、結構地場の企業さんも多いんですね、お菓子業界って。そういうところとも、業界で連携するとか、そういうふうなやり方もあるかなと思います。

【事務局】

辛子明太子屋さんとか全国の協議会があつて、本社が地元にありますし、福岡はお菓子の業界もかなりあつたりしています。実際に昨年以來、古紙の分別義務化の中で、地場の企業の本社に出向いて古紙の分別のお願いをしたり、そういったことで若干つながりも出てきております。今後その辺を総括して、検討させていただきたいと思っております。

【委員】

コロナで生活様式が変わって、家庭ごみでいうと6~7%ぐらい増えたんですね。プラス

チックごみが増えたじゃないですか、使い捨てを使わないといけなくなって。だからコロナでの生活様式による排出傾向みたいなものから、それをこっちにも反映させますみたいなことっていうのはあるんですか。

何となく生活様式とか考え方が変わってきているので、少しそういうのも考えたほうがいいんじゃないかなと思います。実際、プラスチックごみはすごく増えてると思うんです。

【事務局】

生活様式が今コロナ禍で変わってきている中で、プラスチックごみが増えているんじゃないかというのは、今、家庭ごみの組成調査もやっているんですけども、総量で見るとプラスチックは軽いので、割合がそんなに増えてるかと言われると、なかなか増えているという状況はまだ明確に出てない。ただ、生活している実感の中では、増えているというイメージは多分あるかと思います。

実際、新聞報道などでは、容器包装プラスチックを分別しているところはそれが増えているといった話もありますので、確かに生活様式の変化によってプラスチックが増えている、プラスチック以外にも増えているものもあるかもしれませんが、その辺はしっかり分析した上で、それに対してどういう対応をしていくか、指標に反映するというのは難しいかもしれないですけども、生活様式で使われてるプラスチック自体は、実際は必要なプラスチックではないかというふうに考えています。ですのでそこをどういうふうに変革していくかという、恐らく使わなくてはいけないものなので、代替素材への転換であるとかいったところが一番重要なのかなと。

この中に代替素材の普及促進とかいう施策も入れていますので、その中でいい指標を取ればなというふうには考えています。もう少し検討させていただければと思います。

【委員】

そのために、われわれは以前容積目標を全国で初めて出してるんです。プラスチックとか紙は重量ではなく、やっぱり重要なのは容積なんです。要するに、かさばるからすぐにいっぱいになる。だからもし組成調査をされたんだったら、1%ぐらいのプラスチックの増でも容積はかなり変わってくる。大体の数値はあるんですけども、そういうのも指標にしたらいい。前の計画で重量・容積・有害物の3点セットでやってましたので、それをもう1回掘りおこせば、1つの指標になると思います。

プラスチックと紙は、重量で表現するとなかなか減量目標が達成できないんです。かさばるのが問題だから、プラスチックが重量でしたら、3%ぐらいしか今回のコロナで増えてない。しかし見た感じでは、3倍から5倍に膨れますから。そういう新しい目標を、今度やったほうが市民は分かりやすいかなと。

【委員】

ちょうどたまたま今日、お昼でビュッフェを食べたんです。そしたらビュッフェでは、今までは普通の洗い箸を使ってたはずなのに、全部割り箸になっていて、すごいごみだと思います。そしてスプーンとかなんかも全部、洗ったのじゃなくてプラスチックなんです。だからこれからちょっとコロナが続くと、事業者からの特に飲食関係から出てくるんじゃないかなという感じがします。

それがいつまで続くかはあれにしても、少しその辺も考えておくのは必要かもしれません。しばらくは、元に戻れというのは飲食店には難しいでしょうけど、そうやってお客さんに安心ですよと言って呼んでるわけだから、複雑なところではあるんですけど。でも、しばらくは心しておかないといけないかなという感じはします。

【委員】

でもやっぱりコロナの分は分けておかないと、市も市民も努力してるのに。なんか難しいですね。

【委員】

それは過渡的なテンポラリーな話だから、5年間ぐらいの計画ですけれども、その中の特化というか、コロナがある程度収束すれば、当然使い方が減るかもしれませんが、来年、再来年ぐらいまではその傾向というのは続くだろうと。マスクは、ひょっとしたらもっと長くかかるかもしれないけど、やはりそれは施策に感染症対策が頭出しされてますから、その中でごみ減量に対しての特記事項みたいなので、少し新しいデータがあれば書いたほうがいいんじゃないですか。

それを全体目標にしてしまうと、ちょっと厳しいかもしれない。災害廃棄物と同じで一過性のもので、ずっと出るわけじゃないから。そのほうが整理しやすいかもしれないですね。

【事務局】

そこの部分で、コロナの話でいくとやはり委員が言われるように一過性な部分と、今後続いていく部分という、まさしく過渡期に今あるので、計画の中にデータなどを位置付けるとちょっと難しいかなと思っているんです。ただ、こういう時代背景、社会状況というのを反映してませんよとは言いがたい時期でもあるので、今内部ではコラム的に少し、こういう今後の懸念があるとか、こういうところに配慮していかなきゃいけないというようなことは、入れていきたいなと思っています。

それで5年後とかに、これが逆にコロナの状況が定着してくるといのが見えたら、またそれを反映したデータもしっかり取っていけるものは取っていった上でアレンジしていけたらなというのが、今のところの考え方です。

【部会長】

ありがとうございます。

ちょっと本編に戻って、取組指標のところに関してご意見は。

【委員】

これを読ませてもらって、例えば2ページでもいいんですけども、取組指標で表がありますけれども、こっちのほうは全部「何とかの削減」とか書いてあるところは、もう少し目立つように「削減」とか「向上」を。

例えば、「リサイクル率を取組指標とする」と書いてるけど、やはり「リサイクルの向上」と、前と同じように合わせたほうがいいと思います。その下も「古紙の焼却量を取組指標とする」と書いてあるんです。実際これはよく読むと、「焼却量の削減を取組目標にする」だから、そこをきちんと明記しとかないと、ぱっと見た時に焼却量を削減目標という言葉がないと、何となく勘違いする。

【部会長】

増やすのか、減らすのかが分からない。

【委員】

それで強調するためには、色を変えておく。右側は、はっきり削減、向上とか。全体で共通しているんです。やっぱり落ちてるんです、文章が。減らすのか、増やすのか、規制するのかというのは、はっきり考え方のところに入れたほうがいいと思います。これは共通したところですよ。

【部会長】

確かに、「取組指標とする」、そして「現状値」となってるから、どっちの方向に行ったらいいのかを明記して示すということですね。ありがとうございます。

ほかはいかがですか。

【委員】

課題が書いてありますよね。「市内総生産については、3年後となるため」ということ、なかなか指標としにくいということで、これは国の資源生産性の代わりにという形ですよ。ここは仕方ないかもしれないけど、この間評価のところ、福岡市さんは事業者数の増加みたいなことを書いてあったので、そういう福岡市独自ということで、数に対してということで、いわゆる原単位みたいな話ですよ。そんなのがあってもいいのかなというのを1つ思ったのと、4ページの課題、「海洋プラスチックごみの対策は主に陸域の排出になるため」ということなんですけど、海洋に出ていく前に陸域で回収したりするというのが、ある

意味発生抑制としてつながってくるので、それは別に陸域での活動とかそんなのもいいのかなと私は思ったんです。

この中で、地域ぐるみの清掃って書いてあるじゃないですか。昔は地域で週に2回ぐらい、周りの水路の清掃をやっていたんですけど、今はそういうコミュニティができていないから、やっていないんですね。特に都市部はやられていない。だから、そういう地道にやっていることが、ある程度プラスチックの削減につながっていくのではないかなと。市民がやりやすいじゃないですか。市民が身近に感じるような指標もあったほうが、私はいいのかなと思ったんです。

【委員】

「はかたわん海援隊」とかがずっと樋井川とか室見川でやっていますよね。清掃を月に1回ぐらいしていますから、彼たちが押さえているデータがあるはずなんです。それが10年以上やっていますから、そのデータを使ってもいいと思うんです、事例として。それが多ければ、そのまま海に流れている分がコントロールされているという話ですし。

もう1点は、前にもちょっと言ったけど、博多湾内のそういったデータというのは、漁協とか港湾とかにデータはないんですか。博多湾の場合は、アイランドシティの工事をやっていた時には月に1回ずつ清掃して、データを見せてもらったことがあるんです。だけど、今はしていないかもしれませんが。

【事務局】

博多湾については、海域、海底のごみというのは、基本的に漁師さんたちが桁網で回収されたものを漁協のコンテナに保管をして、市のほうで処理をするということをやっております。

ただ、全体量はあるかもしれないけど、組成そのものをそんなに毎回やっているわけではなく、保健環境研究所のほうで実験したりしていますので、その辺から推計することは可能かもしれません。

それと海岸清掃とかは、港湾のほうですしています。定期的にやられている部分の量というのは、確か博多湾の環境保全計画で報告されたりしているので、データを転用することは可能であろうと思います。

【委員】

これに関しては、それこそ海外から流れてくるとか、そういうのが結構あるでしょう。

【事務局】

昔は割と、外国語表記のごみが見られたりしたんですけど、最近は減ってきていると聞いています。もともと博多湾そのものは湾口が狭く、潮流の中でなかなか外海との海水交換に

時間がかかるので、逆に湾の外海のほうがある可能性はあります。

【委員】

そうですね。そしたらやっぱりこれは日本というか、国内ですね。

【事務局】

陸域からの流入ということです。

【委員】

ラブアース・クリーンアップで外側をやっているところは、多いのでは。

【事務局】

そういうご意見も踏まえて、今どういう分布があるかという、正確なものではないんですけども、どういう会場だったらどうだというのはデータを取るようにしています。今は外海のところだけで、それ以外の所は一切、外国語表記のごみというのが入ってきていないというのが現状です。

ですので、逆に都市圏に、これは博多湾の流域圏から流れているものですよということで、データをお示しするようにしてしまして、都市圏とその分に関しては一緒に博多湾を守っていきましょうというような動きをやっていきたいと思っています。

【部会長】

ありがとうございます。指標に関してどうですか。指標の数みたいなのって、あまり考えていないですかね。多ければいいとか、3つぐらいに抑えておこうとか、そういうのはあるんですか。数の意図みたいなものは。

【事務局】

そこまで意図をもって入れたわけではありませんけれども、一般的に政令市の中での指標、数値目標とは別に成果指標として挙げている分については、多いところでは全体として10ぐらい。ないところでは3とか、本当に成果指標も少ないところがありますので、数について特段の決まりがあるわけではないですけども。今回お示ししているのは、これぐらいが事務局の案として挙げているところです。

【委員】

きりがないと思うんですけど、取りあえずプラスチックごみと古紙と生ごみとそれと有害物とか、5つぐらいでもう少しぱっと博多らしい目標を出したぐらいでいいんですけど、言いだしたらきりがありませんね。やっぱり少しは福岡もプラスチックごみに対しては、市民

も協力してくれるような数値目標を出したほうがいいかもしれませんね。

【委員】

ちょっと1つ前に戻るんですけど、3ページの手つかず食品の「Fukuoka いーとプロジェクト」のほうで、各家庭の食ロスが施策に入るんだったら、コンポストも一緒にしたほうが効果はあると思うので、ぜひ検討してください。

【部会長】

分かりました。そしたら取りあえずよろしいですか。資料4をご覧ください。「ごみ処理量の将来推計について」をご説明お願いいたします。

議事（4）ごみ処理量の将来推計について

【事務局】

（資料4について説明）

【部会長】

ありがとうございます。将来推計に関して、またいろいろご意見を頂ければと思いますけれども。

【委員】

資料のコロナの影響ですけれども、福岡の場合は、交流人口は1日5万人ぐらいで、それはほとんどシャットアウトされるかもしれません。変な言い方をすると、ロックダウンみたいな規制をたまたま全世界的にしているから。

これを簡単に言えば、5万人ぐらいが毎日来ていて、それを6カ月ぐらいで推計して、1人に対して普通の原単位の3分の1ぐらい掛けるわけです。住んでいるわけじゃないから、一過性だから。

それですと、家庭はプラス5%ぐらい、ところが事業系の場合はマイナス20%ぐらいです。5万人×3分の1ぐらいの発生量と原単位でやってみられて合えば、あとは2次推計の時に、コロナ後に本当に事業活動があった、あるいはライフスタイルが若干変わりますから、少し交流人口が減ってくるだろうと。そういうところからすると、割と推計値が明らかにしやすいかなという感じがしているんです。

ちょうど今のところは、外国の人がほとんど来ない、それから東京・大阪からもあまり来てくれていないということからすると、本当の意味での昼間人口、福岡市だけのデータがここに反映されているわけです。そうすると5%が家庭でプラスになって、事業系が20%くら

いマイナス。そのうちの交流人口の許容率を3分の1くらい掛けてしまえば、ちょうどいかなと思っっているんです。

ひょっとしたら、10%くらいはこれから事業系は戻らないかもしれない、5年間くらいは。テレワークとかいうのが増えてきて在宅する。その代わり家庭で増えますから、5%にするのか2.5%にするのかは、また議論してもいいんじゃないですか。大体全国的にもこんな感じ、15~10%くらい増えていると思います、家庭ごみは。その代わり事業系は福岡なんかもっと多いほうですね、30%というのは。普通は20%とか10何%とか。

【部会長】

ありがとうございました。私は2次推計のイメージというところの右側の色合いが、どうでもいいことなんですけど、減っていくところのバーが黄色というのはいいのか悪いのかよく分からないイメージなんです。減っていくところの面積をもうちょっと明るいうか、黄色じゃない色にしたほうがいいのか。この緑のところなんか緑じゃないほうがいいのか。ぱっと見で減っていくのがいいんだというふうに思う色合いに。

【委員】

経済の発展とごみというのがすごく難しいところではあるんですけど、やはりこの辺は福岡市がどこを目指しているのかという、市の方向性とか総合計画とかそういうところがベースになると思うんですね。コロナがなければ人口も伸びていく、交流人口も伸びていく、事業者も多くなってくる。これだけビックバンでビルが建っていて、オフィスも増えてくるという、ある程度そういうところは見えていったほうがいいのか。

結局はワクチンとか多分できてくるんです、少し先かもしれませんが。それからすると、このままずっと沈んでいくということではないでしょうから、その辺のところは特に議会とかでは言いにくいところがあるかもしれませんが、やはり市の方向性とか方針とかいうのはある程度しっかりと踏まえた上で、ここを考えていくべきかなと私は思います。

【委員】

関連して、この間の審議会の意見は確かに一理あるんですね。だったら、市で条例で、議員立法というのか条例というのか知りませんが、前から言っているのは、このコロナがなくてもこんなにビックバンで店舗を増やすんだったら、絶対ごみは増えるわけです。

そうすると小さいテナントに対して、大店法の簡便なものでもいいけど、ごみ減量施策をやはり出していただかないと、許認可に影響するよというものを。そういうのはこの部会よりも議会で。ごみ減量施策のファクターを入れておけば、次にリニューアルする時も全部その網にかけられますから、それくらいは議員さんと超党派でできないんですか。

もちろん市の施策、方針もあるかもしれないけれども、別にテナントを出すなどとは言っていないわけです。そうすると小さいテナントからいっぱい事業系ごみが出るわけです。福岡

の特別な条例か何かで、大きくても小さくてもごみ減量施策なり環境の施策を問うようなくらいはしてもいいんじゃないかなと。

【委員】

福岡の特徴から言うと、発展していきながら、だけでもリサイクルとかいろんな企業と市民とが連携して行って、増やしていかない。減らすのはもちろん難しいでしょうけど、増やしていかないという、そういうものを打ち出していくということが今回のつくりじゃないかなと思うんです。

そうじゃないと、経済が明らかに沈んでいっているところは、悪いけどごみは減っていくと思うんです。だから、そこに逆らってじゃないけれども、そういうのを作ってもいいかなという気はします。

【事務局】

ありがとうございます。まさに都市の成長で事業者とか市民が元気にならないと、例えばこういう計画で前向きな計画を作っても、皆さんがその気にならないといけないと思っていますので、そこはさっき言われたように、市の施策と併せながら、もちろんごみは減らすというのはわれわれのミッションであるんですけども、都市の成長と併せた中でいかに市民・事業者を巻き込んで減らしていけるかというメッセージを、この計画の中に出していかなきゃと思っています。

その辺りは先ほどの指標のところでも出てくるのかなと思っています。指標については外出しとしてはそんなに項目は多くならないかもしれないんですけども、先ほど言われた NPO の活動であるとかああいうデータを補助データとして使いながら、そういうものを環境審議会であるとか、それぞれの施策を打ち出す時に、しっかり精査していくということで市民の方々に理解を促していくような、そういう形でやっていきたいと思っています。

【委員】

地球温暖化もそうですけれども、持続可能な開発というのが出されてから、両立というのがあるわけです。だから、発生させたらそれを緩和させるため、あるいは吸収とかそういう施策がこの中に指標として入っていないところが、ちょっと問題があるかなと思うんです。発生してリサイクルするとか資源に変えるとかいうのも両立で置いていかないと、発生量だけになると達成してないじゃないかとおっしゃるわけですね。

でもそれは経済が発展していく中では出てくるものであって、それをいかに最終的な最終処分にしないとか、最後にごみにしないとか、熱回収したりとか、いろんな形での再利用をしているというところですね。環境負荷も抑えているというような指標が両方ないと、納得いかないんじゃないかと思うので、そこを入れてほしいなと思います。

【事務局】

今日は取組指標だけ話をされていて、数値目標については、原単位をベースに考えているということで、これは事業所が増えていく中で、総量を抑えるのはわれわれの努力では難しい部分もあるので、総量も目標にはありますけれども、原単位とそれと併記した形で目標にするということで設定したいというふうに考えています。

原単位に関しては、1事業所当たり、先ほど委員からもご意見がありましたとおり、削減できるところはあります。それを支援する施策を打っていく必要があるというふうに考えておりますので、そちらのほうで対応していきたいというふうに考えています。

先ほど発生量の話もありましたし、ごみ発生量はごみ処理と資源化量とそれぞれを見て考えるべきところがありますので、リサイクルを推進する部分もそうですし、ごみ処理にならない発生抑制の部分もそうですから、そういったところで数値目標と取組指標がちゃんと連携した形で評価できるようにしていきたいとは思っていますので、よろしくお願ひします。

【委員】

生ごみを循環して食べ物に変えるということをコンパクトシティでやっていくというのは、福岡の企業はみんな願っていて、このコロナで価値観が変わっているから、例えばアイランドとかはサーキュラーエコノミーのエレン・マッカーサー財団の3本柱をそのまま採用して、国の政策にしたんです。それぐらい思い切った政策を取れる時期でもあるというふうにぜひ考えてほしいです。

企業自体も、経団連のほうから循環型社会というのを必ず企業の活動理念の中に入れろみたいなお達しが出てきているので、すごく動きが速くなっていますから、今年こういうのを改定するんだったら、ぜひ思い切ったものとかも入れたほうがいいんじゃないかと。なかなか難しいと思いますけど。

【部会長】

ありがとうございます。個人的には、一人暮らしの学生が増えていると思うんです。うちの大学の場合は6割以上は自宅生なんですけれども、指定校推薦がとにかく増えているということは、ほかから来るんですね九州だけじゃなくて。そういう学生が一人暮らしをし始めて、福岡市はごみの分別が緩いよねという感じになると思うんですね。

東京に行かずにこっちで学位を取ってそれでという人が多分増えてくるという中で、原単位もこのまま順調に減っていくのかなというふうにちょっと思うところです。だから、学生にもっと減らしてほしいというか。

どうしても楽な食べ方をするんですね。部活をやっている学生なんて、うちのグラウンドはちょっと遠いんですが田尻というところにあって、あそこまでうちのバスで行って、戻ってくると夜9時半とか10時くらいなので、晩飯はコンビニなんですね、基本的に。そうす

るとごみが増えるのは当たり前という感じになって、しかも今うちの大学のすぐ隣にある、ラクロスとかハンドボールをやっているグラウンドも近々工事をするというので、そういった人たちも来年から向こうに行かないといけなくなるというから、なおさらごみが増える状況になってくる。うちの大学だけかもしれないですけど、そういうふうなことがあるので、このまま減っていくのかなというふうに思います。これは完全な憶測ですけど。

では、ほかにこの将来推計についていかがですか。

(発言者なし)

【部会長】

これはこれで、また後日、数字が出てくるということで。ありがとうございます。

これで議事が終わりましたけれども、何か言い残すことがあれば。

よろしいですか。いろいろご意見頂きまして、ありがとうございます。では進行を事務局にお返しいたします。

【事務局】

小出部会長、委員の皆さま、ありがとうございました。これで第7回第5次福岡市廃棄物処理基本計画策定作業部会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

第8回の作業部会については、12月下旬ごろを予定しております。また日程調整をさせていただきますので、よろしく申し上げます。本日はありがとうございました。